

## 第1回「高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク」総会が開催されました。

表題のネットワークは、環境省中国四国地方環境事務所、四国3県(徳島県、愛媛県、高知県)、2市町村(宇和島市、愛南町)、2研究機関(国立環境研究所、愛媛県総合科学博物館)、1ネットワーク(こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワーク)で構成し、事務局は高知県にある公益財団法人黒潮生物研究所が担っています。

当ネットワークでは2024年3月5日に第1回「高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク」総会をオンラインで開催しました。総会には会員計19名の参加がありました。

総会では事務局の目崎拓真研究所長から開会挨拶がありました。続いて、(株)地域計画建築研究所(アルパック)・(公財)ひょうご環境創造協会共同体の榎本同協会副課長から市民参加型のモニタリングについての話題提供があり、その後、国立環境研究所の熊谷直喜主任研究員から気候変動と生物群集の変化について基調講演がありました。また、活動紹介として、こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワーク\*<sup>1</sup>や2023年度の四国沿岸における沿岸生態系モニタリングの状況について報告がありました。(資料3、4)



総会の様子

今後は沿岸地域の市町村や沿岸の生物相に関する情報を収集する研究機関等に本ネットワークへの参画を呼びかけるとともに、四国における沿岸生態系のモニタリング情報の集積と共有、普及啓発などの取り組みを継続的に実施する予定です。これにより、気候変動の予測や地域の適応策および普及啓発活動に役立てていきたいと考えております。

### 「高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク」設立の背景

「高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク」は気候変動適応中国四国広域協議会において策定した広域アクションプラン\*<sup>2</sup>(令和5年2月14日策定)により、実施主体間の情報共有及び連携を図ることでプランの実施と発展を促進することを目的とし、令和5年8月10日に設置されたものです。(資料1、2)

### 「高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク」について

ネットワークの取り組み内容としては以下の通りです。(資料2)

- ① 高緯度サンゴ群集域\*<sup>3</sup>の沿岸生態系における気候変動の影響の把握や保全・利活用につなげるためのモニタリングを促進する。
- ② 構成員の保有するモニタリング結果や取組に関連する情報を共有する。
- ③ 共有情報を活用した気候変動等への適応に関する情報発信や取組を促進する。

その他ネットワークの目的を達成するために必要な取組を行う。ネットワークの庶務は事務局(公益財団法人黒潮生物研究所)が担っています。事務局は総会の開催、情報共有、連絡体制の管理のほか、目的を達成するために必要な事務的業務を行います。

ネットワークの構成員は以下の通りです(令和6年3月5日現在)。

- ・ 中国四国地方環境事務所四国事務所国立公園課
- ・ 中国四国地方環境事務所四国事務所土佐清水自然保護官事務所
- ・ 徳島県危機管理環境部グリーン社会推進課
- ・ 高知県林業振興・環境部自然共生課
- ・ こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワーク
- ・ 愛媛県県民環境部環境局自然保護課
- ・ 愛媛県立衛生環境研究所環境研究課(愛媛県気候変動適応センター)
- ・ 宇和島市市民環境部生活環境課
- ・ 愛南町役場商工観光課
- ・ 愛媛県総合科学博物館
- ・ 国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター
- ・ 公益財団法人黒潮生物研究所

#### <専門用語の解説>

##### \*1 こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワーク

高知県沿岸域において、サンゴなど沿岸生態系の保全、今後の利活用に必要な人的交流、情報共有や情報発信、気候変動の影響で現在までに生じた変化、生じる可能性のある沿岸生態系の変化に対する適応策の促進につなげていくことを目的に設立されたネットワーク。令和4年2月15日に設立された。会員は高知県内外の自治体、水族館、研究機関など18団体。

##### \*2 広域アクションプラン(資料1)

気候変動の影響は、地域によってその影響の種類も度合いも異なり、都道府県や市町村の境界を越えて発生することから、地域内の地方公共団体が連携して、地域の特性に応じた効果的な適応策を推進することが大切です。

各地域の気候変動適応広域協議会(全国7ブロック:北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州・沖縄)では、それぞれ地域の関係者の連携が必要な気候変動影響をテーマとした分科会を立ち上げ、令和2年度から令和4年度の3箇年をかけて、構成員の連携による適応策を検討し、アクションプランを策定しました[気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)

[https://adaptationplatform.nies.go.jp/moej/action\\_plan/index.html](https://adaptationplatform.nies.go.jp/moej/action_plan/index.html) から抜粋:2024年3月5日に利用]。

中国四国地域においては海水温の上昇等による太平洋沿岸域の海洋生態系の変化への適応をテーマとし、①将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し、②広域ネットワークによるモニタリングと情報の共有の2つの適応アクションが策定されました。

このうち、高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワークでは主に②の適応アクションの推進を目的としており、モニタリングの推進と情報の集約・解析により気候変動の影響を把握すること、また、モニタリングによって得られた情報や、各主体の取組に関する情報の共有と発信を行うことで、地域の適応策や普及啓発活動を推進することを目的としています。

##### \*3 高緯度サンゴ群集域

高緯度サンゴ群集域とは、熱帯・亜熱帯性のサンゴ礁地形を有していない海域のサンゴの分布可能な海域を指します。サンゴ礁地形は主に沖縄県や鹿児島県の島々の沿岸部に発達し、国内の北限は種子島・屋久島付近と考えられています。本ネットワークの対象海域は、種子島・屋久島より北で、太平洋側では千葉県まで、日本海側では新潟県佐渡島までとなります。今後の気候変動では、さらに対象範囲が広がる可能性はあります。注意していただきたいのは、高緯度サンゴ群集域とはあくまで、対象海域の範囲を表すもので、対象はサンゴ群集のみならず、海藻や魚類なども含んでいます。

※詳細については添付資料ならびに下記ホームページを参照ください。

気候変動適応情報プラットフォーム (A-PLAT)

[https://adaptation-platform.nies.go.jp/moej/action\\_plan/index.html](https://adaptation-platform.nies.go.jp/moej/action_plan/index.html)

**高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワークに関するお問合せ**

公益財団法人黒潮生物研究所・研究所長 目崎 拓真(めざき たくま)

TEL 0880-62-7077

<https://kuroshio.or.jp/>

## 気候変動適応中国四国広域協議会で策定された適応アクション

### 適応アクション①

#### 将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し

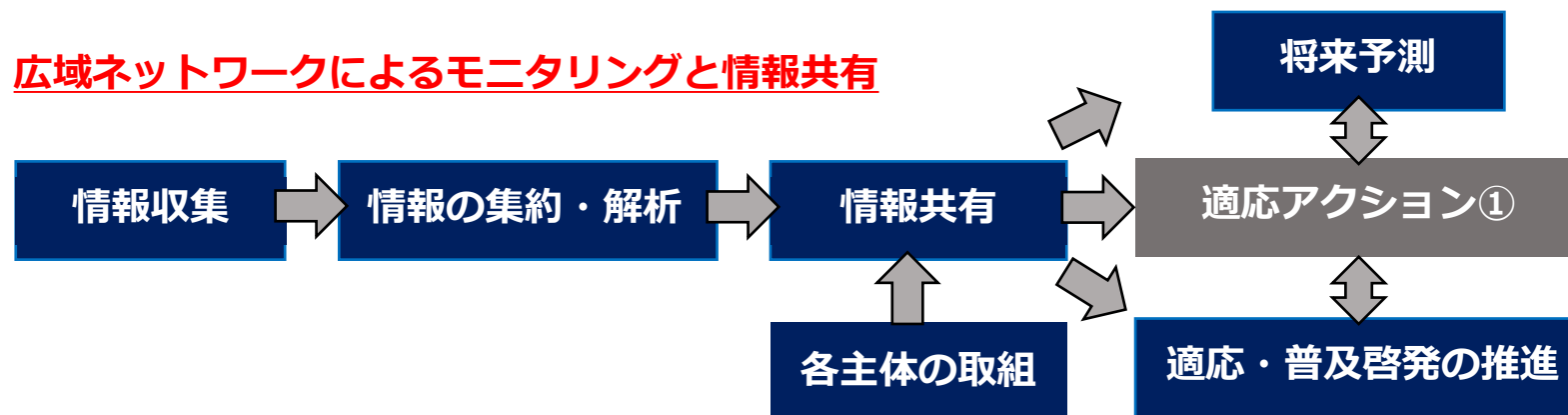
- ・ 将来予測に基づいて取組むべき適応オプションを整理。実行および各種計画へ反映する。
- ・ 最新の気候シナリオを踏まえて内容を更新。順応的に適応を推進。

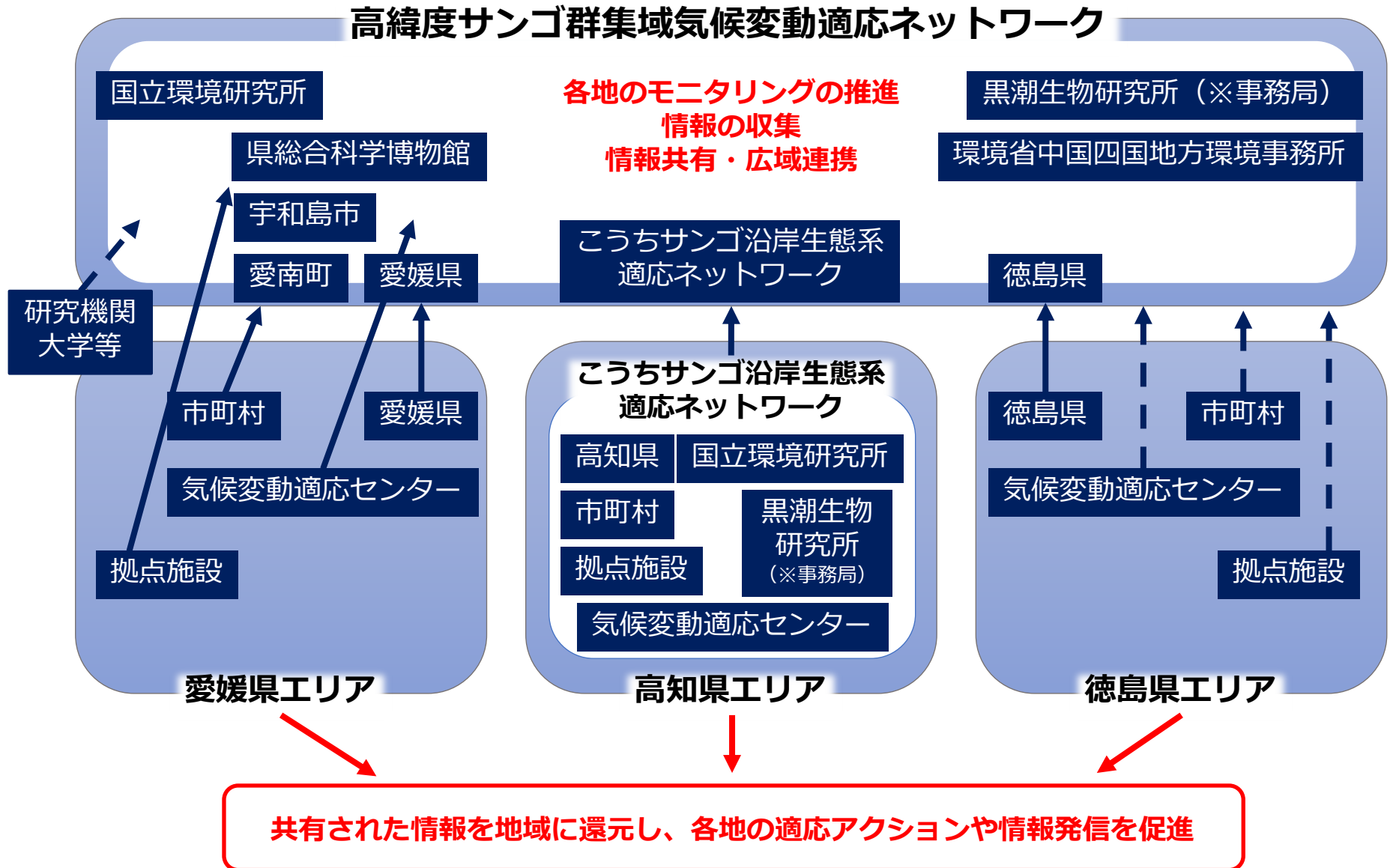
### 適応アクション②

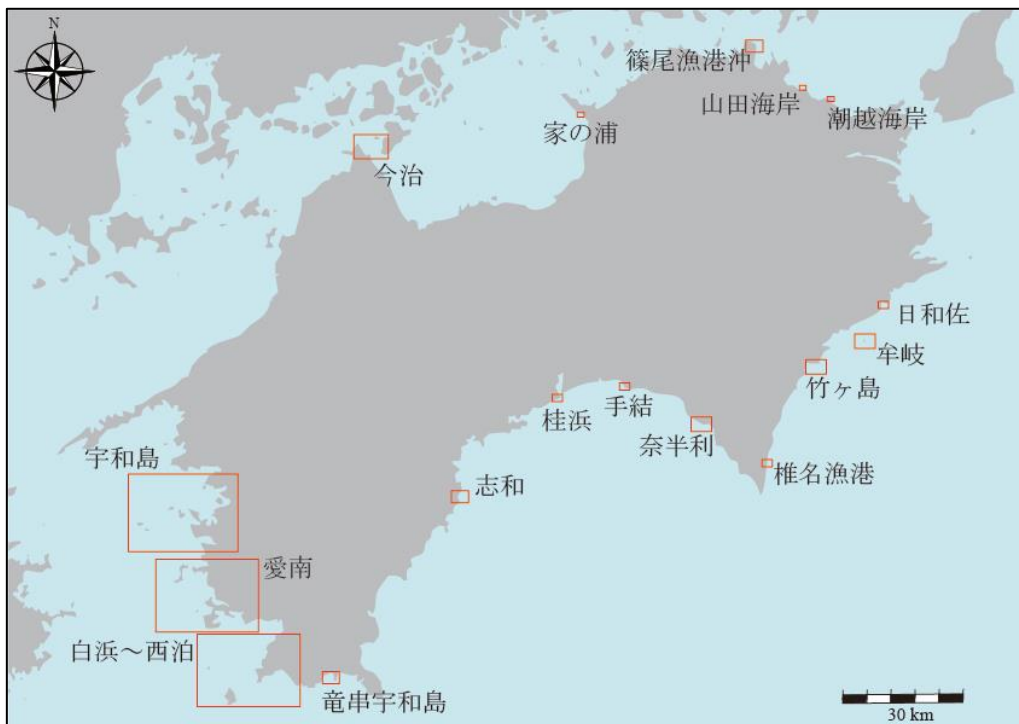
#### 広域ネットワークによるモニタリングと情報共有

- ・ モニタリングの推進および情報の集約・解析により気候変動による影響を把握。
- ・ モニタリング情報や各主体の取組に関する情報を共有・発信し、適応および普及啓発を推進。

#### 広域ネットワークによるモニタリングと情報共有







黒潮生物研究所などが実施した今年度のモニタリング地点

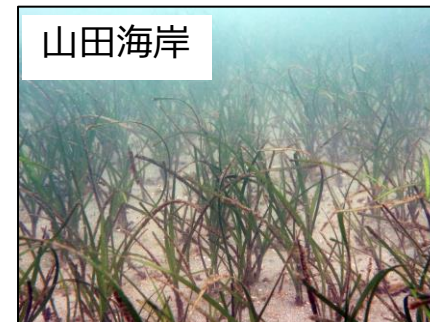
## 香川県

篠尾漁港沖



非造礁性のシオガマサンゴ

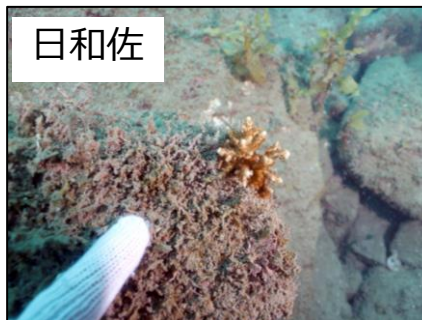
山田海岸



大規模なアマモ群落

## 徳島県

日和佐



初確認のエダミドリイシ

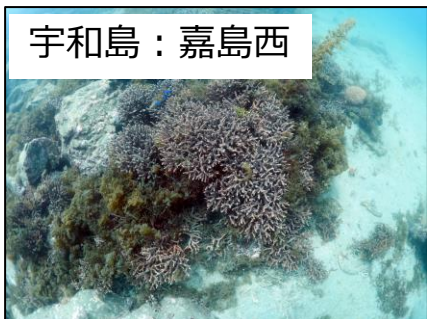
竹ヶ島



エダミドリイシ群集

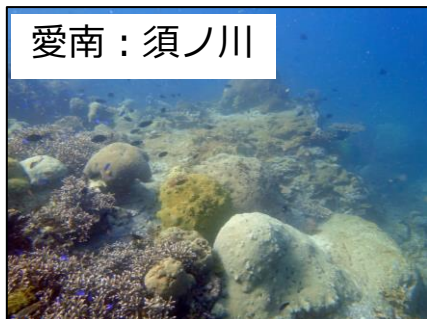
## 愛媛県

宇和島：嘉島西



北限付近のエダミドリイシ

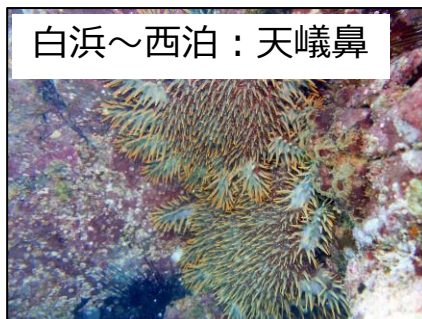
愛南：須ノ川



老成したコマルキクメイシ

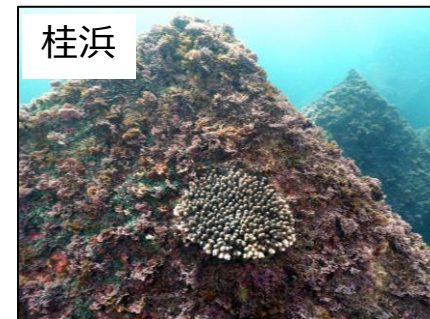
## 高知県

白浜～西泊：天巖鼻

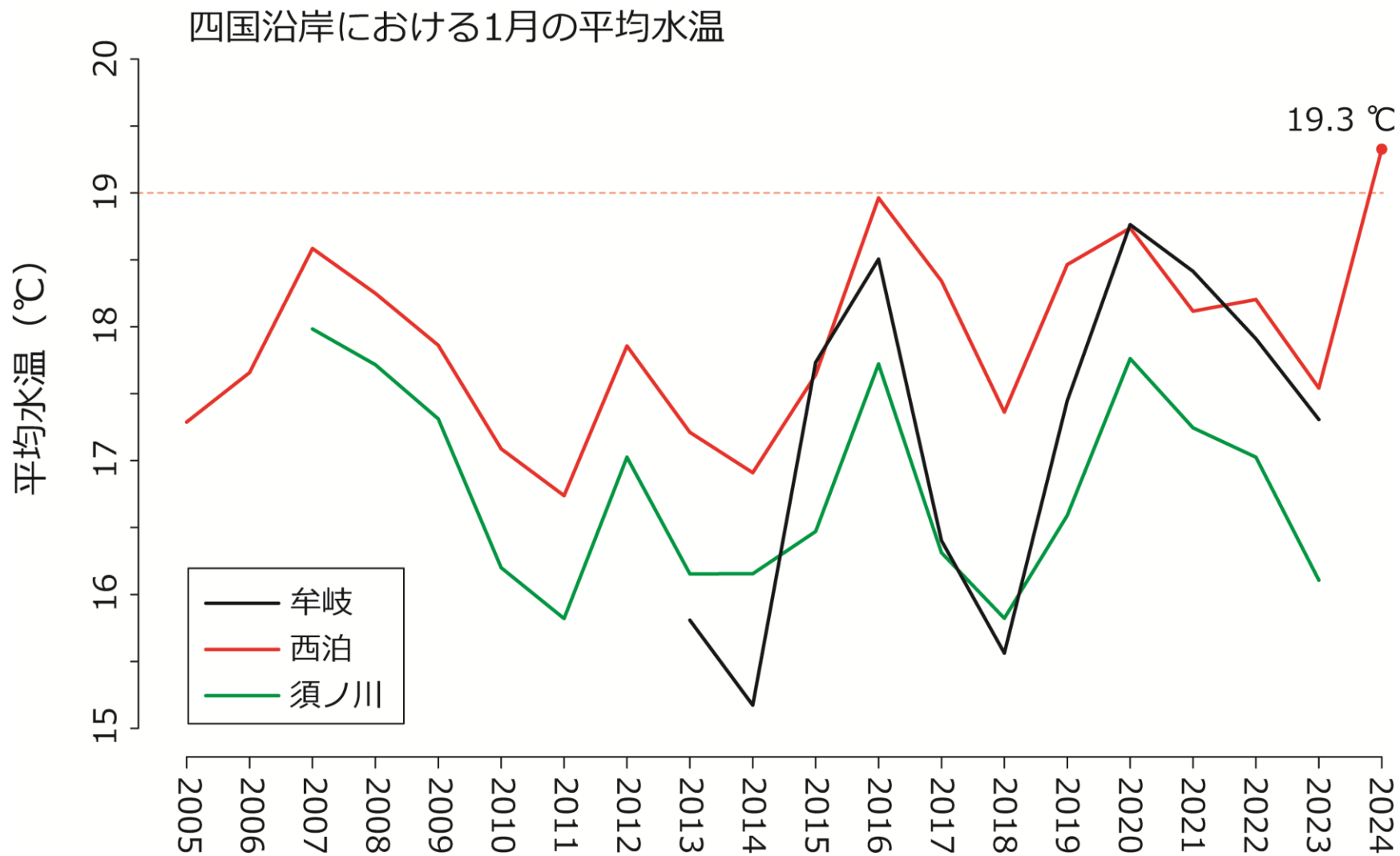


確認されたオニヒトデ

桂浜



初確認のクシハダミドリイシ



**西泊では2024年に過去最高の19.3°Cを記録**